

輝け理系女子

豊橋技術科学大学の挑戦⑩

「女性の輝く社会」が叫ばれる昨今、女性の生き方、働き方に関する様々な議論や試みが実践されている。政治の世界でも、先の統一地方選挙で新たに政界デビューを果たした女性も多くなる。

豊橋技術科学大学で3月10日、名古屋大学、名古屋市立大学と連携で取り組む「女性研究者研究活動支援事業」の一環として「男女共同参画推進と女性研究者活躍促進のために」

を直視した場合、あらゆる分野での労働力不足が生じることが明白。この地域で

今、なぜリケジョ支援なのか

発足した東三河広域連合も、行政分野における人口減少社会への対策だ。

教員の女性割合(非常勤除く)が4.9%(全国の国立大平均値は14.7%)

同大で、理系女子に的を絞ったシンポジウムを開催するのは初めての取り組みで、当日は企業・行政・教職員・学生ら約130人が参加した。超少子高齢化の人口減少社会の現実を

研究と大学運営などあらゆる場面において男女が互いを尊重し、それぞれが個性

と能力を発揮できる活力あるキャンパスを実現するため、「豊橋技術科学大学

男女共同参画宣言EQUAL」を掲げて男女共同参画を推進している(同大



シンポジウム会場の様子

ホームページにも掲載)。

本連載では7回にわたって、3月10日に行われたシンポジウムの詳細と、そのアンケート結果などについて、さらに同大男女共同参画室長で学長補佐でもある中野裕美教授(研究基盤センター)にインタビューした内容をまとめる。

(戸崎史子)